

# あなたの変化が 世界を変える

国連事務総長ユース担当特使

ジャヤトマ・ウィクラマナヤケさん (29)



持続可能でよりよい世界を目指す国際目標 (SDGs) 達成のため、世界各国の若者に啓発活動などを行っている国連事務総長のユース担当特使、ジャヤトマ・ウィクラマナヤケさん(29)が毎日新聞のインタビューに応じ、近年活発になっている若者の政治活動について語った。【日下部元美】

気候変動対策を訴えるデモや女性への性暴力に対する抗議運動など、近年若者の政治的な活動が活発になっている。ウィクラマナヤケさんは「私が訪れた国の若者は先進国、途上国を問わず、差し迫った課題に大人が危機感を持っていないことに不安や失望感を抱いていました。若者にとって気候変動問題などは遠い未来の話ではなく、自分たちの未来の話だからです」と指摘する。

ウィクラマナヤケさんによると、世界で働く若者のうち、約1億4500万人が貧困にあえいでいる。また、6億人の若者が紛争や人道的な危機にある地域で暮らし、さらにまだ子供なのに結婚さ

せられる「児童婚」など、不当な慣習によって何百万もの少女の命が脅かされているという。

だが、日本では、政治活動で声を上げることをためらう若者も多い。さらに、世界的にも、若者が政治に関わりたいと思っても、機会や手段は限られている。これに対しウィクラマナヤケさんは、「私たちの世界でいま決められようとしていることは、私たちの未来に影響を与えます。若者はその未来を生きることになるので、意見を行使する権利があるのです」と語る。国連は2018年に「ユース戦略」を立て、若者が提言できる機会などを作り、加盟国にも若者が政治に参加する機会を作るよう求めているという。

世界では戦争や自然災害、難民の問題などが続いている。人によっては、問題が大きすぎて、自分は何もできないとってしまうこともあるかもしれない。ウィクラマナヤケさんが例にあげたのはスウェーデンの環境活動家のグレ

タ・トゥーンベリさん(17)。

18年夏、地球温暖化への危機感が薄い大人に抗議するため、学校を休み、1人で座り込みを始め、やがて、世界を巻き込む動きになった。「あなたの生活スタイルを変えたり、家族や学校、コミュニティの中で何かを変えたりすることは、地域での問題解決につながります。その変化が別の所での変化につながり、結果的に世界を変えることになります。たとえ1人でも、社会を変える波を作り出せるのです」と強調した。



温暖化対策を訴えるグレタ・トゥーンベリさん  
—2019年5月

プロフィール 1990年生まれ、スリランカ出身。スリランカの若い女性を含め、若者の市民・政治活動への参加を促す運動「ハッシュタグ世代」の立ち上げに貢献した。2017年6月、26歳で国連事務総長のユース担当特使に任命された。